



昭和29年11月
高校3年の時
王ヶ頭(2034m)で
校歌を歌う

て作歌する高野だが、小松の熱意に打たれ来松。自ら校歌作詞の材料を集めた。

前日は、山東出兵で満州に駐屯した松本歩兵五十連隊の将兵一千余名が凱旋。電車通りを兵営に向うパレードを目の当たりにした。松本城や名所旧跡も巡り、お城近くの樋口翠松堂に立ち寄り、趣味の書画骨董にも目を通した。

王ヶ頭で小半時を過ごす間に春の嵐メイストームにも遭遇。まさに『風が十字に荒ぶれ狂ふ』を実感したものだ。

三城から百曲りコースで登り帰路の道程は、武石峰から袴越山↓芦の田池(美鈴湖)を経て本郷村浅間へ。下浅間温泉街の玉の湯に止宿した。

一風呂浴びた夕食の席で、高

古稀を迎えて

高17回 中島

私は県陵17期、部活は地学部でした。最近地学部のOB会が

野は好物の地酒を所望。余りの旨さに銘柄を問うた。宿の主人は「松本の在、坂北村の山清だ。260年も続く老舗の酒せ」と答えた。

帰京した高野はすぐさま作詞し、小松の許へ送った。作曲は斯界の泰斗、信時潔に。

斯くて米沢⇄高野⇄小松の長野師範学校トリオと、高野⇄信時の東京音楽学校コンビの連携による二中学校歌が誕生した。「若き我等」と副題の付いたそれは、高野が作詞した全国百余の校歌の中でも、最高傑作のひとつと言える。

県陵の宝とも言うべき高野作詞の校歌を、声高らかに斉唱する喜びと誇りを県陵人は持ち続けたい。同学同窓の絆をより強固に、県陵のさらなる発展に努めたいものだ。

以上、虚実を取り交ぜての二中学校歌「若き我等」誕生物語の滑稽譚である。

睦雄



活発に開催されるようになり、平成28年7月に開催された総会

で以下の3人合わせてお祝いをして頂きました。

谷川禅隆先輩が平成19年に教師で藍綬褒章を受章され、同窓会報第34号の同窓生のコラムに掲載された高28回下田力さんが日本天文学会天文功労賞を受賞されました。私は平成28年4月里親会の活動が評価され藍綬褒章を受章することができました。

現役当時の地学部は活動が活発で、大滝山の気象観測ではテントに泊まり込み24時間交代で観測をしました。梓川の地質調査では東京電力のダムができる前に調査しようと毎週沢渡⇄稲核下流まで出かけました。

今思うと大学受験を控えた3年生の時も調査と観測で勉強は殆どしませんでした。

里親について言葉は知っているが、内容を知らない方が多いと思います。少し里親制度の里親について触れさせて頂きます。

里親とは児童福祉法で定められ、知事が認定します。里親には、養育里親・養子縁組里親・親族里親の3種類があり要保護児童を家庭で養育するものです。特に養育の難しい子どもは専門里親(養育里親に含まれる。)に措置されます。

養育里親は5年毎に、専門里親は2年毎に更新します。養育里親には里親手当が支払われます。乳児院、養護施設と同じ立場です。

近年厚労省では要保護児童の家庭養育を推進するように都道府県市に通達を出しており、長野県も平成25年に社会的養護のあり方について、平成27年に長野県家庭的養護推進計画を策定しました。家庭養護は家庭での生活を通して愛着形成を図ることができ、当たり前の生活ができます。

長野県でも児童福祉法の改正、厚労省の通達で社会的養護が必要な子どもへの委託先が里親優先になり、里親を取り巻く検討委員会、里親促進事業、里親フォーラムと

長野県との打ち合わせ、検討会が多く少くも要保護児童の役に立てばと思いい活動しております。



天神 深志神社

TEL 0263-32-1214

深志神社 梅風閣

TEL 0263-32-6310

宮司 遠藤久芳(高19回)一九会

〒390-0815 松本市深志3-7-43

FAX (0263)32-5908

TADACHIYA
SINCE 1848



代表取締役 大宮康彦(高17回)

長野県松本市大手3-3-4(大名町)
TEL 0263(32)0057 FAX 0263(34)2561

手づくり朝食と大浴場が人気のホテル
松本ツリーリストホテル
Matsumoto Tourist Hotel

全日本シティホテル連盟会員・政府登録

縣 正長 (高17回)

縣 秀享 (高23回)

〒390-0815 長野県松本市深志2丁目4-24
TEL 0263-33-9000 FAX 0263-36-6435
http://www.trist.co.jp/